

平成25年度 第2回鳥取環境大学教育研究審議会 議事要旨

- 日 時 平成25年6月26日(水) 14:40～16:00
- 場 所 鳥取環境大学 大会議室(本部講義棟3階)
- 出席者 古澤巖学長、高橋一副学長、三野徹学生部長、岡田昭明環境学部長、富岡庄一経営学部長、秦野諭示環境情報学部長、東樋口護人間形成教育センター長、田中勝サステイナビリティ研究所長、千葉雄二地域イノベーション研究センター長、上山弘子委員、田中仁成委員、常田禮孝委員、木下法広委員、横濱純一委員
[14名/14名]

【議事】

1 前回議事要旨の確認

原案のとおり了承された。

2 報告事項

(1) 近況報告

事務局から資料に基づき在籍者の状況、就職活動状況等大学の近況について報告があった。

(2) 平成25年度「地(知)の拠点整備事業」について

事務局から資料に基づき報告があった。

(3) 平成24年度決算について

事務局から資料に基づき報告があった。

委員による主な意見等は次のとおり(○:質問・意見、→:回答 以下同様)

○Ⅱの利益処分額の積立金は、額の決定基準等制度的に決まっているものか。

→Ⅱの利益処分額のうち、(1)の積立金に計上した640万円は、経営努力によらないものとして設置者に返還すべき額である。(2)の1億957万円は、経営努力したものとして、設置団体の長の承認を受ければ、研究目的等のために執行することができるものである。

3 審議事項

(1) 平成24年度業務実績について

事務局から資料に基づき説明があり、審議の結果、原案のとおり承認された。

委員による主な意見等は次のとおり

○英語村は高い評価となっているが、学生が多文化に親しみ英語を学ぶのに大きな成果があったと思う。小中高生等の利用を考慮し、例えば平日の1日だけでも遅い時間帯に変える、又は隔週でもよいので土日のどちらかを空けるなどの、門戸を広げるような検討はできないか。

→利用時間の拡大については学生からも午前中開設の要望があるが、スタッフの確保等課題もあるので、今後の検討課題としたい。小中高校生は、夏休み等長期休暇を利用して開催し、大変好評であった。今年度も昨年同様事業を共催する予定でいる。さらに中部の船上山で英語キャンプも予定している。

○資料 P41 のイノベーション研究センターの評価が 2 となっている。センターの研究者が地域に出ている姿をよく見るので、地域連携の評価としては低いのではないか。

→この評価はイノベーション研究センター活動の評価ではなく、外部の窓口としてイノベーション研究センターをサポートする体制が現在出来ていないので、大学全体の地域連携として 2 という評価としている。報告事項にあった「地（知）の拠点整備事業」の中で方法を検討中である。

(2) 平成 26 年度入試〔学部・大学院〕について

事務局から資料に基づき説明があり、審議の結果、原案のとおり承認された。

4 その他

次回の教育研究審議会の日程について、7 月 24 日（水）14：40 に開催予定が了承された。